

序論

- 一、本書の目的 13
- 二、素行評価の時代的変遷 16
- 三、本書の構成 25

第一章 素行「聖学」の基礎的考察

- 第一節 素行における復古の理由 36
- 第二節 素行「聖学」の理論構成 44
- 第三節 素行「聖学」の理論構成の特色—朱熹『近思錄』との比較を通じて— 56

第二章 素行の「道統」・「異端」論

- 序 70
- 第一節 素行における「道統」と「異端」の概念規定 72
  - 一、「道統」と「正統」の区分 72
  - 二、「異端」の概念規定—「雑学」異端「説」— 75
- 第二節 素行「道統」観の儒学史における位置 85
  - 一、儒学における「道統」観成立の軌跡 85

- 二、素行の「道統」観 97
- 第三節 素行「異端」批判の理論的根拠—仏老批判・朱子学批判を中心として— 102
  - 一、仏老批判の理論的根拠 104
  - 二、朱子学批判の理論的根拠 123
- 第四節 素行の「異端」対策 141
  - 一、「攻乎異端、斯害也已」の解—朱熹・仁斎との比較を兼ねて— 141
  - 二、「異端」対策—「浮屠淫祠」論— 144

第三章 素行の「四書」解釈—「性」から「習」へ—

- 序 182
- 第一節 『論語』の「性相近」 185
- 第二節 『孟子』の「性善」説 190
- 第三節 『中庸』の「性」・「道」・「教」 202
- 第四節 『大学』の「三綱領」 210
  - 一、底本の選定 212
  - 二、原文の経・伝の区分 213
  - 三、訓詁字解 214

第四章 素行「聖学」の「日用の学」への展開

序 248

第一節 「日用卑近」における「俗」・「雑」の意義 250

第二節 「日用の学」の主張 253

第三節 「日用の学」の方法論―「格物致知」説― 261

結語 271

第五章 素行「聖学」の「士道」論への展開

序 280

第一節 「聖学」と「士道」の接点 283

第二節 「士道」論の内容―「聖学」との理論的連関を中心として― 291

一、「立本」 293

二、「明心術」 296

三、「詳威儀」 304

四、「慎日用」 308

五、「附録」 310

結語 312

第六章 素行「聖学」の神道論への展開

序 324

第一節 素行の神祇観の成立背景と特色 327

一、素行以前の神道説に見られる主な神祇観 327

二、素行の神祇観の特色 333

第二節 素行の神道論の基本的立場 335

一、神道論の基本的立場 335

二、神道論における「常」・「中」の意義 337

第三節 神勅からの「聖教」の導出 343

一、「無道不可以君臨宇宙」の神勅に見られる徳治思想 343

二、「天壤無窮」の神勅に見られる「治平の道」 344

三、「当猶視吾」の神勅に見られる「執中」・「無私」 350

結語 359

第七章 素行の「聖学」と兵学

序 372

第一節 「神武」論 375

一、「左文右武」の「神武」観 375

二、「神武不殺」の「神武」観 381

第二節 「有道殺無道」・「一殺多生」論 383

第三節 「武治」論 386

第四節 「王覇」論 390

結語 396

結論 .....

参考文献目録 .....

付篇 素行『四書句読大全』・朱熹『大学章句』対照表 .....